

## 第10回湖東圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会報告

日 時：令和7年6月2日（月）15：00～17：00

場 所：愛荘町役場2階大会議室

参加機関：協議会構成員

本協議会は、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するものへと意識を変革し、社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」を再構築するため、多様な関係者が連携して、湖東圏域（彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町）における洪水氾濫ならびに土砂災害による被害の軽減に資する取組を、総合的かつ一体的に推進するための協議を行う場として設置している。

### 【主な議事】

(1) 湖東圏域の取組方針の改定について了承された。

(2) 令和6年度の取組報告

- ダムの異常洪水時防災操作を行う際に避難が必要であり、緊急放流の通知があった際には、避難指示の検討が必要となるため、タイムラインに取り入れた方が良いとの意見があった。
- 宇曾川ダムは、洪水吐にゲートがない自然調節方式であるが、非常用洪水吐と呼ばれる越流部からの流下が発生する場合があります、放流量が増加するため、緊急放流として関係市町へ通知するので避難指示の検討をお願いします。
- 上記2項目について、今後の担当者会議において、タイムラインへの反映を提案予定。
- 各市町と県が重要水防箇所の点検時に用いる「水防重要箇所点検カルテ」の様式を改良し、重要水防箇所の理由などを記載することとなった。

(3) 【情報提供】

① 令和6年7月米原市伊吹山土砂流出災害への対応状況について

(滋賀県流域政策局、彦根地方气象台)

- 彦根地方气象台からは、災害発生後に同様の災害が起こる可能性が高まっている場合や、応急復旧作業者が被害に合う可能性がある場合に、特定の緯度経度における気象情報の提供など、通常の防災メールよりも一歩進んだ情報提供を行ったことが報告された。
- ② 豪雨災害に関する意識についてのアンケート結果について（滋賀県流域政策局）
- ③ 中小河川の「洪水浸水想定区域図」と「地先の安全度マップ」の公表について  
(滋賀県流域政策局)
- ④ 滋賀県防災アプリの開発について（滋賀県流域政策局）
- ハンデをお持ちの方への配慮、ユニバーサルデザインの採用など、利用しやすいアプリを目指して開発を進める。
- 避難訓練機能に関しては、訓練の検証を行うことが重要であるため、その検証手法を検討する。

【議事内容】

## 1. 会長代理の滋賀県 流域政策局 辻局長の挨拶

近年の気候変動の影響により水害が激甚化・頻発化しており、毎年のように全国各地で豪雨災害が発生している。昨年は、湖東圏域では降雨による大きな影響はなかったが、隣接する湖北圏域の米原市伊吹山で、7月の1か月の間に3回の土砂流出が発生し、家屋や土木施設等で被害が生じた。幸い、人命被害はなかった。

その際、近畿地方整備局からは TEC-FORCE の派遣、気象台からは伊吹地区のきめ細やかな雨量予測データや観測データなどの提供があった。この場をお借りしてお礼申し上げます。

本協議会の取組方針では、自助と共助が最大限発揮されるよう自ら行動し、地域の防災力を高めることで、社会経済被害を最小化することを目指している。そのため、水害・土砂災害に強い地域づくりを目指し、これまでも委員の皆様には様々な取組を進めていただいているところである。

本日は、市・町・国・県の行政機関に加え、学識者の方にも御出席いただいている。水害・土砂災害の防止について皆様と共に考え、今後の取組につなげていきたい。



## 2. 質疑応答・意見交換

### (2) 【報告事項】 令和6年度取組報告

- **（多々納教授）** 要配慮者利用施設の避難確保計画の話は非常によく進んでいる。避難確保計画の作成が難しい施設は多くあると思う。施設だけの問題ではなく、要配慮者の皆様が安全に避難できるよう、個別避難計画等が重要となる。また、都市計画の立地適正化計画を作成する際に、防災指針を策定することになっている。地区防災計画と連携させることが重要だと考えているが、なにか取組をされていれば教えてほしい。
- ⇒ **（彦根市）** 彦根市の立地適正化計画では、防災上の課題として、「洪水発生時に避難を実施しないと人的な被害が発生する可能性が高い区域」、「最大クラスの地震発生によって建物に被害が出る可能性が高い区域」、「災害時の避難所利用に支障が出る可能性が高い地域」など8つの課題を定めている。スケジュールとしては、中長期含めて10年以上のスケジュールでハード整備を進めていく予定である。また、ソフト対策として、長期計画でまち作りでの活用を視野に入れた土地の災害リスク情報の充実、危機管理対策の強化、関係者と連携した早期復旧・早期復興の体制強化等を定めている。今回、取組報告で説明した要配慮者利用施設を含む要配慮者の支援体制の推進については、同計画の中期計画として位置づけている。危険な区域の設定につい

ては、市が定めているハザードマップと県で公表している浸水想定区域図から危険箇所の整理を行っており、主に芹川沿いの地域で、家屋倒壊等氾濫想定区域を居住誘導区域から除外するよう、計画上も更新の際に見直しを行っている。

(多々納教授) ダムの異常洪水時防災操作について、河川が満杯の状況でダムが異常洪水時防災操作を行う場合は、避難が必要だと考えられる。そのため、各市町は、異常洪水時防災操作を意識したタイムラインを作成することが良いと考える。

- ⇒ (流域政策局) 緊急放流は、ダムが満杯に近づくほどの雨が既に降っている状況であり、下流の川の水位は高い状態と考えられる。その状態で放流量を増やすことになるため、緊急放流の通知を、避難基準の参考にさせていただきたい。
- ⇒ (多々納教授) ダム用の洪水浸水想定図を通常作成されていると思うが、宇曽川ダムの流域でも作成しているか。
- ⇒ (流域政策局) 宇曽川ダムについては宇曽川の洪水浸水想定区域図を見ていただくことになる。宇曽川ダムの異常洪水時防災操作、つまりダムが満杯になりダムに入る水の量をそのまま下流に流すことになった場合には、着色の区域が浸水想定区域となる。

そのため、異常洪水時防災操作が必要な場合は、避難指示の検討をお願いしたいというのが趣旨である。

- ⇒ (愛荘町) 愛荘町としては、宇曽川ダムに緊急放流の実績がないため、課題は永源寺ダムと考えている。永源寺ダムの緊急放流により、沿川市町は避難指示が必要な状況に直面しており、特に夜間の21時23時などにそのような避難指示を出さなければいけない状況は、基礎自治体が抱える大きな課題である。そのため、湖東土木事務所や東近江土木事務所で浚渫を過去2年間にわたり実施していただいております、流下能力の改善という点で進展があった。

愛荘町として、注視しているのは永源寺ダムであるということをお伝えしたい。

- ⇒ (流域政策局) 宇曽川ダムは、洪水吐のゲートがない構造である。雨が降ってダムに水が溜まってくると、その水位に応じて下流へ水を流し、流量を調節する方式である。ただし、ダムへの流入量が多くなると、非常用洪水吐から越流する状態が発生する。そのため、ゲートがあるダムと同様に、越流開始の3時間前、1時間前、越流開始のタイミングで通知を行う。緊急放流と同様の事象があることについてご理解をいただきたい。

愛知川沿川(永源寺ダム)については、別途、愛知川沿川防災情報WGにて、毎年、水防時の対応を確認している。引き続きWGで連携をしながら対応を検討していきたい。

(多々納教授) 重要水防箇所を県と市が共同で点検することは、非常に良いことだと

考える。県が管理している河川であっても、各市町は水害が発生すると大きな影響を受ける可能性があるため、県と市町と一緒に点検し、状況を把握することは重要である。「重要水防箇所点検カルテ」とはどのようなものか。また、なぜそのような重要水防箇所に指定しているのか伺いたい。

- ⇒ (湖東土木事務所) 水防重要箇所点検カルテの記載内容としては、点検の状況写真と位置図に加えて、過去の水防活動の実績、過去の災害とその被害、復旧工事の実績を記載している。主に、洪水予報河川や水位周知河川となっている河川が選ばれており、そのネック地点や、計画流量に対して最も流下能力の低い箇所を記載している。また、付近の水防資機材を保管している水防倉庫の箇所を記載している。その他、維持管理や現地確認した際に気づいた点も記載している。
- ⇒ (多々納教授) 河川の水防重要箇所がどこかという話は、防災の担当の方々に必要だと思う。ただ、防災担当者が必ずしも土木の専門家であるとは限らないため、防災担当者と土木担当者が一緒に現場を見ていただき、どのようなときに危険なのか、どのような点に注意すべきか情報を共有していただきたい。そういった情報共有ができるカルテになっているのか伺いたかった。
- ⇒ (流域政策局) 資料2-2取組報告の15ページ左下にある重要点検カルテには、特定の箇所、写真、点検内容が記載されているだけで、なぜそこが重要水防区域なのかが書かれていない。特に重要水防箇所は、過去に堤防が決壊したり、堤防が大きく破損した際に氾濫域が広がり、甚大な被害が及ぶ恐れがある箇所として重要水防箇所として特定している。  
そのため、なぜ重要水防区域なのかを明示した上で点検することで、点検時に着目点が再共有できるということを多々納教授がご指摘くださったので、カルテのバージョンアップを考えてほしい。

### (3) その他情報提供

#### ① 令和6年度大雨時の米原市の対応状況について

- (多々納教授) 彦根地方気象台からは、どのような状況になった場合に、米原市のような対応をしてもらえるのか。
- ⇒ (彦根地方気象台) 災害が発生しそうな場合は警報などを発表するが、その際は、通常の防災メールやホットラインで事前にお知らせする。今回のケースでは、災害発生後に同様の災害が起こる可能性が高まっている場合や、応急復旧作業者が被害に合う可能性がある場合に、通常の防災メールよりも一歩進んだ情報提供を行ったもの。そのような場合は、気象台からも連絡するが、市町からすぐに連絡を頂ければ、相談や資料提供を行うことができる。

#### ④滋賀県防災アプリの開発について

- (愛荘町) 防災アプリの機能として、自治会等のグループでタイムラインを共有する機能や、訓練機能の搭載について、自治体ニーズのヒヤリングは進めているのか。各自治体のニーズを吸い上げて進めていただけると良い。
- ⇒ (流域政策局) 市町の皆様や、県民の皆様のご意見も伺いながら進めたい。
  
- (彦根市) 私も最近老眼鏡なしでは文字などが見られなくなってきた。いざというときに手元に老眼鏡がない場合、せっかくアプリがあっても情報を把握できないのは不安を感じる。様々な方がおられると思うが、災害時避難行動要支援者や何らかの配慮が必要とされる方などへ最大限の配慮を盛り込んでいただきたい。  
また、色覚に障害のある方もおられ、非常に似通った色の違いを使い分けられても、判断がつかない場合がある。こうした方々への配慮もぜひ検討していただきたい。  
そうした方々にとっては、カラフルな色分けで地図を作成しても、どこが危険な区域で、どこが安全な区域なのか、自分の地域が何色に該当しているのかが分からないケースもある。このような場合に対しても、ぜひこの地図の色分け等について配慮していただきたい。
- ⇒ (流域政策局) 年齢に応じて、文字のサイズを変更できるような、利用しやすいアプリを目指して開発を進めていきたい。  
色覚異常の方への配慮としてユニバーサルデザインの採用等、アプリの仕様の中で検討していきたい。
  
- (多々納教授) 必要な避難のタイミングで避難ができるのか、徒歩でどのくらいの時間で避難場所までいけるのか、といった予行演習できる機能が入っているのが重要。そのため、地先の安全度マップにおける最大浸水深だけでなく、時系列の情報も必要。そうすることで避難のタイミングの判定も可能になる。  
すぐに搭載できなくても、いずれそういった機能を付けるべきであると思う。
- ⇒ (流域政策局) 避難訓練に関しては、訓練の検証を行うことが重要であると考えており、その検証手法を考えていきたい。  
また、地先の安全度マップの時系列データの活用等に関しては、データ量が非常に多いため、検討が必要。最初のアプリリリースには間に合わないため、今後の調整が必要である。その件については相談させていただきたい。

以上